

令和7年度病害虫発生予報第1号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
麦 類	うどんこ病	並	並
	赤かび病	並	やや多
ばれいしょ	疫病	並	並
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ジャガイモガ	並	並
トマト	黄化葉巻病	多	多
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	やや多	やや多
いちご (本圃)	灰色かび病	やや少	やや少
	ハダニ類	少	やや少
	アザミウマ類	やや少	並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	カンザワハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	少	少
	クワシロカイガラムシ	少	少
	(防除情報第1号)		

【発生予報】

本文の () 内は平年値

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（大麦 発生を認めない、小麦 発病茎率0.0%、発生圃場率0.8%）。

イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（大麦 発生を認めない、小麦 過去10か年平均 5.5%）。

2. 赤かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、大麦、小麦で発生を認めなかった（大麦 発生を認めない、小麦 過去10か年平均 発病穂率0.0%、発生圃場率1.3%）。

イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、大麦、小麦で発生を認めなかった（大麦 過去10か年平均 0.1%、小麦 発生を認めない）。

ウ 感染時期（小麦：開花期、大麦：蒴殻抽出期）に感染に好適な気象条件で推移した。

エ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本病の発生に好適であ

る。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 小麦の場合、開花最盛期（出穂期の概ね7日後）と、その10～20日後に2回目の防除を行う。

イ 大麦の場合、蒴殻抽出始め（穂揃期の10日後）と、その概ね7日後に2回目の防除を行う。

ウ 出穂期は、播種時期や圃場条件、今後の気象等によって異なるため、必ず圃場ごとの生育状況を確認したうえで、適期防除に努める。

エ 薬剤の種類によっては、麦種ごとに農薬使用基準が異なる場合があるので、使用にあたっては収穫前日数及び使用回数に特に注意する。

ばれいしょ

1. 疫病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠等

4月前期の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.2%、発生圃場率1.3%）。

(3) 防除上注意すべき事項

発生を認めてからの薬剤散布は効果が劣るため、ジャガイモ疫病初発時期予測システム（FLABS-N）の予測結果を参考に発生前からの防除を行う。FLABS-Nの予測結果はホームページを随時更新している。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（24筆）の結果、寄生株率は4.5%（5.8%）、発生圃場率は54.2%（39.6%）であった。

イ 黄色水盤トラップ（雲仙市：中山間営農研究室調査）では、トラップ設置（3月上旬）から成虫の誘殺が確認されており、平年（過去5か年平均）よりやや多い状況で推移している。

ウ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

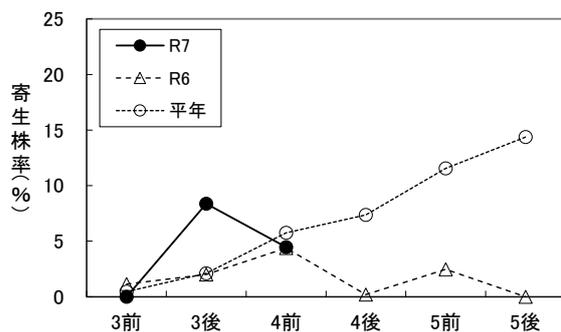


図 ばれいしょアブラムシ類寄生株率の推移

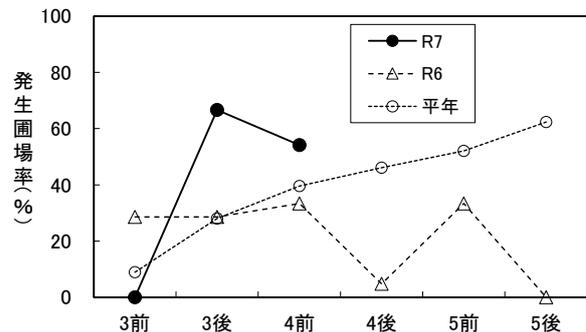


図 ばれいしょアブラムシ類発生圃場率の推移

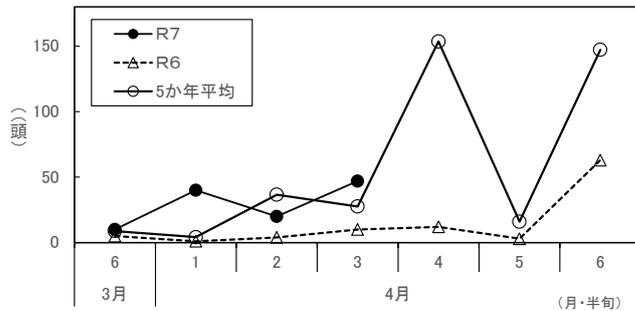


図 アブラムシ類誘殺数(黄色水盤トラップ 雲仙市愛野町)

3. ジャガイモガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.0%、発生圃場率2.1%)。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 多

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(9筆)の結果、発病株率は1.4%(0.3%)、発生圃場率は55.6%(19.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する(タバココナジラミの項参照)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(9筆)の結果、発病果率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は22.2%(16.3%)であった。発病葉率は0.7%(0.8%)、発生圃場率は22.2%(27.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内が多湿にならないよう曇雨天時でもできるだけ換気を行う。

イ 発病果、発病葉は伝染源となるので早急に除去し、ハウス外に持ち出し適正に処分する。

ウ 多発後の薬剤防除は効果が劣るので予防的な防除に努める。

エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤(令和7年長崎県病害虫防除基準P162~163の「作用機構による分類(FRAC)」参照)を連用しない。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(9筆)の結果、寄生葉率は9.0%(4.2%)、発生圃場率は33.3%(48.3%)であった。一部多発圃場があった。

イ 向こう1か月の気温は、平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

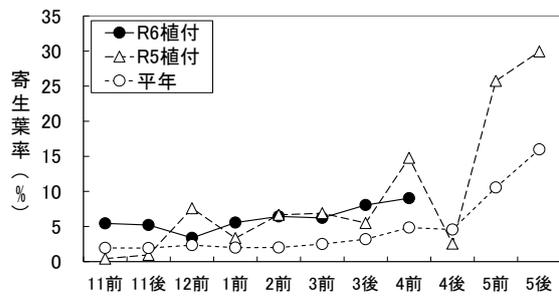


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率

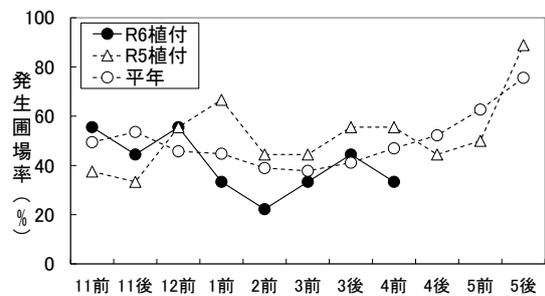


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 黄化葉巻病の発生が多い状況にあるので、作付け終了までの施設内の防除対策を徹底する。
- イ 黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、防除に努める。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P165～166の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
- エ コナジラミ類は葉裏に多く寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。
- オ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。
- カ 施設内および周辺の雑草は生息・増殖場所となるので除草する。

いちご

1. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
4月前期の巡回調査（26筆）の結果、発病果率は0.0%（0.3%）、発生圃場率は7.7%（22.2%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア ハウス内が多湿にならないよう曇雨天時でもできるだけ換気を行う。
 - イ 発病果等の発病部位は伝染源となるので早急に除去し、ハウス外に持ち出し適正に処分する。
 - ウ 多発後の薬剤防除は効果が劣るので予防的な防除に努める。
 - エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和7年長崎県病害虫防除基準P179～181の「作用機構による分類（FRAC）」参照）を連用しない。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
ア 4月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は3.7%（14.0%）、発生圃場率は34.6%（61.1%）であった。
イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

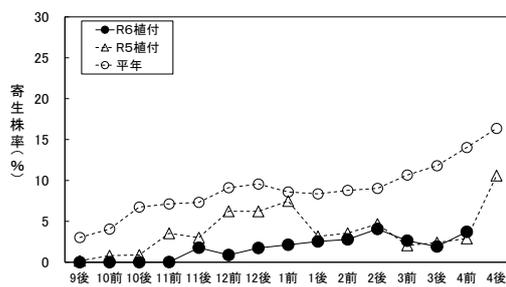


図 いちご ハダニ類 寄生株率

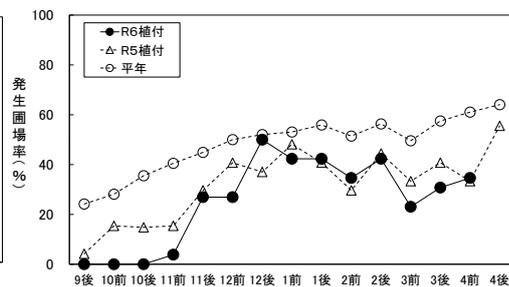


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が下葉の裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準 P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- ウ 天敵を導入している圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を散布する。ただし、ハダニが多発し、今後、天敵による防除効果が見込めない圃場では、天敵への影響は考慮せず効果の高い薬剤を散布する。

3. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 4月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生花率は5.0%（過去9か年平均6.5%）、発生圃場率は53.8%（同68.0%）であった。
- イ 向こう1か月の気温は、平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

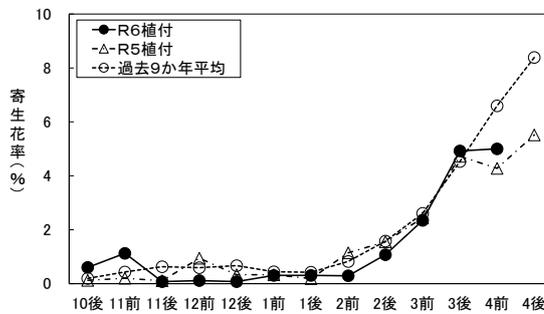


図 いちご アザミウマ類 寄生花率

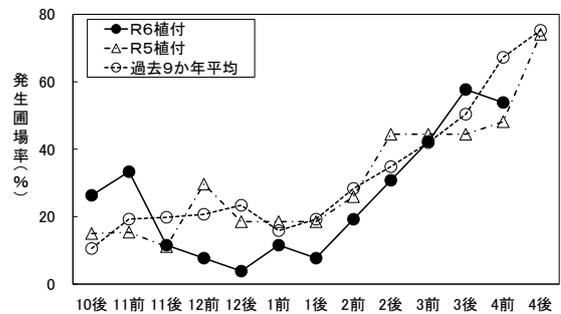


図 いちご アザミウマ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発生が多くなってからの防除は困難であるので、早期発見・早期防除に努める。
- イ 本虫は薬剤が到達しにくい蕾や花、がく等に寄生しているため、丁寧に薬剤散布を行い薬液がかかるようにする。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和7年長崎県病害虫防除基準 P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）を連用しない。
- エ ミツバチへの影響日数を確認してから薬剤選定、散布を行う。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア びわにおける4月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 寄生果房率0.0%、発生圃場率1.0%）。
- イ フェロモントラップによる調査の結果、西海市で4月1半旬、諫早市（県予察圃場）、大村市で4月2半旬に初誘殺を確認した。

(3) 防除上注意すべき事項

果樹カメムシ類の果樹園への飛来時期及び飛来数は地域や園によって異なるので、今後の予察情報や病害虫防除所ホームページ（下記参照）に掲載する果樹カメムシ類の発生推移を参考に、各園地での発生動向に注意する必要がある。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.7%（1.6%）、発生圃場率は16.7%（31.1%）であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（5回×4か所当たり）は0.3頭（1.6頭）、発生圃場率は16.7%（50.7%）であった。

3. クワシロカイガラムシ

令和7年4月15日付け病害虫発生予察防除情報第1号による。

